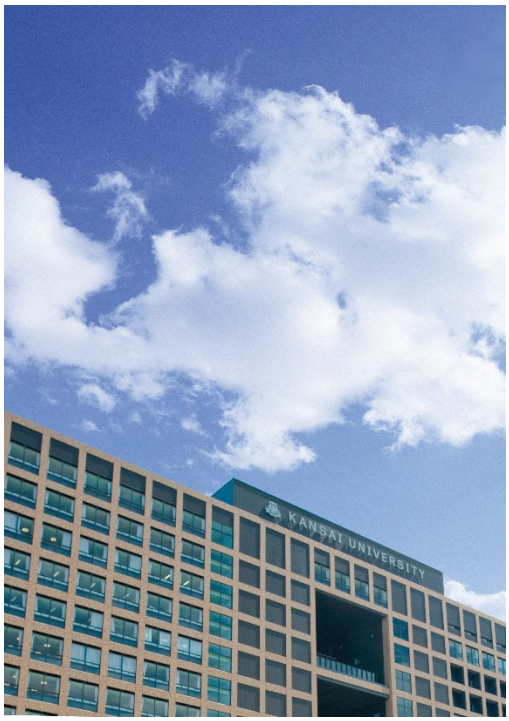
関西大学 初等部
2024 年度学校評価報告書



2025 年 3 月

目　次

１．本校の概要 1
２．今年度の重点目標における取組計画・内容、自己評価及び今後の改善方策 1
３．アンケートの実施状況 17
４．アンケート結果の分析 17
５．学校関係者評価委員会からの評価結果 20
６．校長の意見書 22
７．アンケート結果 23

2024年度　関西大学初等部　学校評価報告書

関 西 大 学 初 等 部
自己点検・評価委員会

1　本校の概要

（１）　沿革

2010年（平成22年）４月、学校法人関西大学の初めての小学校として高槻市に開校、中等部・高等部とともに12年一貫教育を行う。学級数12、児童数371名、教員数36名（専任21名、非常勤14名、特任外国語講師１名）（2024年５月１日現在）である。

（２）　建学の精神、教育理念・教育方針・教育目標等

本学の教育理念である「学の実化」に基づき、学理と実際との調和を基本とする教育を展開し、「確かな学力」「国際理解力」「健やかな体」「情感豊かな心」を養い、高い倫理観と品格を備え「高い人間力」を有する人間を育成する。

校訓として「考動　ー学びを深め　志高くー 」を掲げ、めざす子ども像は「考える子」「感性豊かな子」「挑戦する子」としている。

2　今年度の重点目標における取り組み計画・内容、自己評価及び今後の改善方策

（１）　重点目標①：本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、主体的に授業研究に取り組むこと

達成状況の目安：(◎)大幅達成・(○)達成・(△)未達成・(×)大幅未達成

取り組み計画及び評価指標(Plan)	自己評価
ア　安定した学級経営と学力向上 【評価指標】 ・　生活習慣や学習規律の定着による安定した学級経営及び学習指導（オープンスクール参加者対象アンケートの自由記述欄での各授業での子ども評価及び、保護者の学校評価アンケートの当該設問の肯定的回答80%以上） ・　校長による日常的な各学級回り（授業等参観） ・　児童の学力向上に資する教員の研究授業・研究会の実施及び教科会議等の実施	【取り組み状況(Do)】 学級経営については、日常的な指導を通して基本的な生活習慣や学習規律の定着を図るとともに、連絡帳や電話による直接連絡・学級・学年だよりに加え、学級・学年ブログにより家庭との連携を進めた。さらには、日記やアンケートなどによる児童への内面的な指導支援を行った。各担任や教科担当と管理職の連携を密にし、素早い対応に努めた。 学力向上については、研究テーマを「クリティカルシンキングを高める授業デザイン～STEAM化を手立てとする探究的な学習を通して～」と設定し実践・研究を進めた。 ICT環境の整備とICTの活用については、ADP（Apple Distinguished Program）2016-2018、ADS（Apple Distinguished School）2018-2021、ADS 2021-2024に引き続きADS 2024-2027の認定を受け、日々、子どもたちの学びを深め広げるために、iPad等のデジタルデバイスを有効活用するとともに、ロイロノート等のアプリの効果的な活用やプログラミング学習の実践を進めている。 また、児童の学習活動の充実のため、各学年で外部人材の協力

・ 研究発表会の開催（２月３日） ・ 全国学力学習状況調査結果（国公立大学附属校の平均点を上回る。）		を得ている。 【達成状況(Check)】（○） 毎日、校長が各教室をまわり児童の様子、教員の指導状況を見るとともに、教員からの報告と合わせて学級の状況を把握するように努めた。 一年間を通して、各学級で安定した学級経営が行われており、児童が落ち着いて主体的に学ぶ様子が見られた。学校運営、生徒指導、教科指導面でも、月１回の定例会議を開き、各教員が情報交流及び指導の充実に努めた。 ６月に対面で実施したオープンスクールに参加した受験対象保護者からは、子どもたちの学びに向かう主体性やそれを引き出す教員の指導力について高い評価をいただいている。具体的なアンケートの記述を一部紹介する。「先生が情熱的で感動しました。また、生徒さんの意欲もすごく、しっかり発表していて、授業も対話形式、グループ勉強が多く、ITも活用されていて、素晴らしかったです。教室のオープンさや、生徒の作品もたくさん貼られていて、全体的に明るくオープンで、日々新しい事に挑戦している、パワフルなオーラを感じました。」「印象深かったのが、全ての教室でなぜそのように考えたのかという一歩踏み込んだ質問をされていた光景でした。普段から当たり前になっているのも、生徒の皆様の様子を見て感じ驚きました。」「実際の授業を拝見させていただき、どのような授業内容なのか、どのように先生と生徒が関わっているかがよく分かりました。その中でも、特に印象に残っている場面がありました。先生の質問に手を挙げて答えた女の子が、少し間違えた答えをした時のことです。女の子は少し俯いてしまいましたが、先生が良かったところをフォローし、女の子の頑張りを誉めていました。次に先生が質問した時には、女の子は自信を持って手を挙げている姿があり、感動しました。間違えや失敗を恐れないという環境の中で学べるということは、より探求や挑戦に繋がると思います。このような環境で息子も学んでほしいと願っています。」 今年度も管理職を除く全教員が研究テーマに沿った研究授業を実施し、研究授業毎に授業反省会を実施した。その際、これまで継続して指導を受けている本学総合情報学部の黒上晴夫先生、本学教育推進部の岩﨑千晶先生、千葉大学教育学部の二宮裕之先生からも指導助言を受け、指導力の向上を図った。

実践・研究のまとめとして２月１日（土）に研究発表会を開催した。本年度も例年同様に管理職を除く専任教員全員が授業を公開し、450名以上の方に参加申し込みをいただいた。参会者からは、「子供たちが様々な思考ツールを使って考えを整理しようとしている姿が非常に印象的でした。他校の児童からは考えられないレベルの高いことを行っているなと言うのが第1の感想でした。」「真剣に学ぶ姿、授業の思考の流れを止めない姿勢と熱意に涙が出そうになりました。先生と子ども達の信頼と向上するための阿吽の呼吸、お金では買えない時間と空気ですね。」などの高い評価を得た。

日常の学習活動において、ゲストティーチャーとして国際交流関係者、助産師、医療メーカー等、多様な職種の方の支援を受けた。

ADS 2024-2027の認定については、本校における「子どもたちが好奇心を持って学べるような環境と思考力を高める取り組み」が評価されたものである。

また、本年度も６月29日（土）にICT活用の公開授業（“Think×Act”×CREATION 2024）を開催し、授業公開した。参会者からのアンケートには「iPadを文房具のように使いこなすとのお言葉通り自在にICT機器を使いこなし、根拠を示し、画像を共有して理解を促進していることがわかりました。意見を述べるにとどまらず、発表にまとめあげ、テキパキと的確な発表をする在校生の姿が印象的でした。情報をそのままままとめるのではなく、評価し、結論にまとめる取り組みに感嘆しました。貴校の先駆的なICT環境により、議論が深化し、多面的にとらえ、わかりやすく表現することができるということを実感しました。」「単にICT機器を利用しているだけではなく、体系的に考えて活用されているのが伝わりました。そして、発信の多様化にも繋がり、より時間を、有効的に物事を深く考えることに繋がると感じました。」など、本校の実践を高く評価していただいた。

本年度の文部科学省の全国学力・学習状況調査は、私立・国立小学校の平均点を大きく上回る結果となった。

2024年度 全国学力・学習状況調査結果

	全国平均	私立平均	国立平均	本校平均	標準偏差
国語	67.8	77.1	81.2	90.5	1.1（3.1）
算数	63.6	76.9	80.0	90.7	1.4（3.9）

		【今後の改善方策(Action)】 今年度は、これまでの取り組みを継続しつつ、新たな研究テーマを設定して児童の学力向上に取り組んできた。今年度の取り組みの成果と課題を共有して、次年度も教員全体で学力向上に努めたい。今後も、より一層の基礎基本の定着に加え、児童の思考力・表現力を高めていく指導を充実させたい。 児童の生活面については、学年団の教員が密に連絡を取り合うとともに、管理職への報告や、現在実施している職員会議等での児童の実態共有の場の設定を継続し、いじめ・不登校等の事象が生起した場合でも、学校全体で情報を共有し対応にあたりたい。 ICT 活用については、今後もプログラミング、ICT 活用方法、情報モラルの指導、生成 AI を含む AI リテラシーの構築等、学校全体としての系統的な指導を進めていく必要がある。特に生成 AI を含む AI リテラシー・利活用ガイドラインに関しては、大学・高等部・中等部の共通認識に基づいた体系的な AI リテラシー・ガイドラインを構築する必要がある。 今後も、2024 年 10 月に Kick off した関西大学（ライティングラボ）、高等部・中等部、初等部合同のプロジェクトチーム「AI リテラシー・AI ガイドライン策定委員会」を中心に生成 AI の利活用に関する議論やガイドラインの検討・策定を進めていきたい。
イ　図書館教育の充実 【評価指標】 ・ 図書館司書との連携による読書・資料活用促進（個人の各月読書冊数の一覧表作成、中学年以上を中心に、各授業等での活用のための学年への資料本貸し出しの実施） ・ 図書館活用のための講座を各学年１回以上実施 ・ 読書メソッドの活用（ブックトーク、アニマシオン、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を学年に応じて実施） ・ 外部講師を招へいした講演		自己評価 【取り組み状況(Do)】 思考力育成の土台となる読書活動充実に向け、学年に応じた児童への声かけを行うとともに、各児童が借りた本の冊数集計や一覧表作成を行い、日頃の指導に役立てている。図書の授業では、読書に加え、図書館司書による読み聞かせを行うとともに、読書メソッドの活用や調べ学習における資料の活用等、情報活用能力の育成にも力を入れている。 また、各学年のオープンスペースにはブックトラックを置き、読書や調べ学習の充実を図っている。 現在開設中の「デジタル図書館」は子どもたちが自宅からでも自由に本を借りることができるシステムである。このため、長期の休校や夏休みなどの休業中であっても、子どもたちは興味を持った本を自由に読み進めることができた。 また、司書による図書館活用講座の他、本年度は絵本作家として「ぼくはおこった」「ぼく　ネコになる」「ふつうに学校にいくふつうの日」などの著書の他、「ぞうのエルマー」シリーズの

会等の実施		翻訳者でもある　きたむら　さとし先生による読書会をしていただいた。
		【達成状況(Check)】（○） ５名の司書は、児童の選書支援はもとより、情報活用に関わる支援、また、教員に対する支援も行っている。読書講座については、図書館活用オリエンテーションだけでなく、図書の分類、図鑑の活用方法等、探究活動につながる指導も行った。 本年度も図書館活用のための講座を各学年１回以上実施するとともに、読書メソッドの活用としてブックトーク、アニマシオン、リテラチャーサークル、ビブリオバトル等を各学年で実施した。 図書室の読書スペース「わくわく館」と学習スペース「はてな館」を目的に応じて活用し、読書に加え探究学習のための情報収集の場としている。 本年度も「はてな館」に子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することで、子どもたちが図書室に足を運ぶ機会を増やすことを目指した。例えば、本校との交流校である韓国花津小学校からいただいた物品や「交流校締結の公式文書」などを展示した韓国ブースなどは、例年同様に、韓国と交流している２年生が非常に興味を持ったブースであった。 また、オープンスペースのブックトラックに資料本を置くことで、児童の図書活用の頻度が高まっている。 本年度は「デジタル図書館」のシステム変更を行った。これまで使用してきたシステム（LibrariE：紀伊國屋）は、何時でも何処でも自由に本を貸し借りすることができるという利点があったが、貸出冊数に制限があったため、人気の本については順番待ちとなることがあった。そこで、本年度10月に貸出冊数に制限のない新しいシステム（Mottosokka!：ポプラ社）に変更し、子どもたちが複数名で同時に閲覧できるようにした。 このシステム変更により、デジタル図書の蔵書数が328冊から4300冊へと増加した。 文部科学省の定める「義務教育諸学校の学校図書館に整備すべき蔵書の標準」によると、学級数 12 クラスの学校は 7920 冊が標準となっているが、本校ではデジタル館の蔵書を含めると約 24000 冊を超える蔵書となった。 きたむら　さとし先生による読書会は、低学年向けと高学年向けに分けて実施した。低学年向け読書会では、作品の読み聞かせの他、制作にまつわる話を聞くことで、子どもたちが絵本の面白

		さや表現の楽しさを感じることができた。高学年向けの読書会では、読み聞かせに加え、作家という仕事について、体験談を交えた話を聞くことを通して、子どもたちは働くことの良さや仕事のやりがいに目を向けることができた。
		【今後の改善方策(Action)】 思考力育成の土台となる基本的な語彙や知識の獲得は、計画的な図書館教育によって支えられており、読書指導、情報活用力の育成両面から次年度も継続して取り組みたい。 子どもたちが興味を持ちそうなブースを期間限定で設置することは、子どもたちが図書室に足を運ぶ機会の増加に非常に効果的であった。今後も継続して設置していきたい。 また、外部講師による講演は、児童の読書への興味関心を高める良い機会となったので、今後も継続していきたい。
ウ　国際理解教育の推進 【評価指標】 ・　英語圏、アジア圏の国々との積極的な交流 ①　各学年（２年生以上）の国際交流取り組みの継続実施 ②　交流国、交流内容に応じたテレビ会議や互いに作成した資料交流等を実施 ③　英語教育との関連づけ （テレビ会議、修学旅行等の交流に合わせたコミュニケーションスキルの習得機会を設定）		自己評価
		【取り組み状況(Do)】 国際交流については、２年生以上の学年でテレビ会議システムの活用や、手紙や学習成果物の直接交流による取り組みが定着してきた。２年生の韓国、３年生の台湾、４年生のインドネシア、５・６年生のニュージーランドとのテレビ会議システムを利用した交流など、取り組みを継続してきた。インドネシアの子どもたちとの交流は本年度からスタートしたものである。 それぞれの学年において、交流の際に英語で質問や挨拶ができるように、英語のモジュール学習や授業を進めている。
		【達成状況(Check)】（○） 交流相手校や関係機関と連携し、２年生韓国花津小学校、３年生台湾太平國民小学校、４年生インドネシアのジャカルタ日本人学校、５・６年生ニュージーランドTe Ākau ki Pāpāmoa Schoolとの交流を実施することができた。 ２年生の交流校、花津小学校は2012年に本校と提携校となっている。このため、継続して交流をしてきている。本校教員、花津小学校教員ともに交流を積み重ねてきたことで、短い打ち合わせでも充実した交流を行うことができている。 ３年生の交流校、太平國民小学校もこれまで８年間継続して交流をしてきている学校である。この学校に隣接する國立臺中科技大學の黄教授（日本語を指導担当）のサポートも受けることができたため、円滑に交流することができた。 ４年生がジャカルタ日本人学校を交流先としたのは、総合的な

		学習の時間に行っている「防災＋SDGs」における地震と水害の学習との関係からである。インドネシアは火山を有するために自然災害が頻発する国であり、ジャカルタは地理的・文化的背景から水害が頻繁に起こる場所として、「防災＋SDGs」と国際理解教育と関連づけて交流することにした。 ５・６年生の交流校、Te Ākau ki Pāpāmoa Schoolは修学旅行の渡航先であるニュージーランドでADS（Apple Distinguished School）に認定されていることから交流を始めた学校である。 それぞれの学年で、事前に交流テーマを決め英語も交えて直接交流することにより、児童が意欲的に活動に取り組み異文化理解を深めたり、コミュニケーション面で自信を持ったりすることができた。 英語教育においては、４技能をバランス良く育てることを目指してカリキュラムを工夫し、コミュニケーション能力の基礎を養う指導を進めることができた。１年生から４年生までは保護者向け英語発表会も実施している。
		【今後の改善方策(Action)】 ２年生の韓国花津小学校、３年生の台湾太平小学校は継続して交流を進めることができている。２年生が13年間、３年生が８年間継続して交流してきたことで、低学年の国際理解教育のカリキュラムは体系化されてきている。 ４年生以上の学年についても、子どもたちにとって価値ある体験を積み重ねられるよう、交流先を探っていきたい。

（２）　重点目標②：良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること

取り組み計画及び評価指標(Plan)		自己評価
ア　生徒指導・人権教育の充実 【評価指標】 ・　学校全体で児童を指導・支援する体制の確立（年度当初の「子どもを語る会」実施及び児童の情報交流を毎月実施） ・　児童対象の生活アンケートを年２回実施し、実態把握と必要に応じ学校全体での早		【取り組み状況(Do)】 今年度も、教員による日常的な児童観察の他、生徒指導連携会議（構成メンバー：管理職、生徒指導主任、教務主任、健康教育担当、当該学年主任・担任）を生徒指導の中核として位置付けた。また、障害のある子どもが十分に教育を受けられるための「合理的配慮の提供」が義務化（2024年）されることを鑑み、「特別支援連携会議」（構成メンバー：管理職、特別支援コーディネーター、教務主任、生徒指導主任、健康教育担当、当該学年主任・担任）を校務分掌に位置付けている。 子どもの情報の共有については、「子どもを語る会」や毎月の

期対応に努める。 ・ いじめ問題・不登校等への対応など生徒指導に係る校内体制の確立（生徒指導連携会議及び、いじめ・不登校対策委員会実施による早期発見・早期対応） ・ 特別支援教育に係る校内体制の検討（特別支援連携会議の実施） ・ 人権教育の取り組み充実（全児童対象の人権教育講演会を１回実施、情報モラルに係る学習機会の設定、系統性をふまえた各学年の学習内容の確立）	職員会議における各学級の状況報告により、支援の必要な子どもについて教員全体で共有するとともに、一人ひとりの状況把握のために全児童対象の生活アンケートを実施した。 　また、保護者に対しても年度当初に「学校のきまり」の冊子を配付し、生活指導全般に対する協力を依頼している。いじめ・不登校問題への対策については、管理職を含む「いじめ・不登校対策委員会」を設置し、必要に応じて円滑な対応ができる体制を整えている。 　人権教育に関しては、意識を向上させるため学年カリキュラムを作成し、計画的に実施するとともに、人権教育講演会を実施した。
	【達成状況(Check)】（○） 　年２回の児童生活アンケートは生徒指導部会が集約・分析を行い、日常の指導に活かすとともに、必要に応じて全教員で情報を共有した。また、「その日の問題はその日のうちに解決」をモットーに、担任を中心として電話、連絡帳により家庭との意思疎通を図ることで、学校と家庭とが一体となって指導支援を行うことができた。「子どもを語る会」は、年度当初と年度末の２回実施した。 　不登校傾向対応については、担任だけが抱えることなく早期に不登校対策委員会を招集したり、ミューズキャンパスのスクールカウンセラーとの連携も行ったりしながら、学校全体で対応に取り組むことで一定の成果をあげている。 　特別支援教育については、中等部・高等部の取り組みを参考にして、組織的な対応ができる支援体制を構築した。具体的には、特別支援コーディネーター（１名）とともに業務を担う「特別支援コーディネートチーム（４名）」を設置することで、特別支援コーディネーター担当教員の負担を軽減し、より組織的な対応が行えるようにした。この新たな支援体制により「個別の教育支援計画」の策定、外部の専門家を招いての巡回指導・相談を定期的に実施するなど、具体的かつ有効な支援を実施することができた。 　人権教育については、分野別の学年カリキュラムをもとに指導を進めた。また、例年実施している全校生を対象にした人権講演会については、車いすダンスなどの文化芸術活動を行っているジェネシス・オブ・エンターテイメントの方々に来ていただいた。車いすダンスのデモ、その他の文化芸術活動の紹介を見て、障がいのある人が、車いすダンスを「生きがい」から、自分で生活を支えるための新しい「職業」へとしていくことを目指しているこ

		とを知り、共に生きる社会について考える貴重な機会となった。 　また、各学年対象に外部講師を招いた「いのちの授業」を行うことで子どもたちの人権感覚の育成を目指した。１年生・３年生・４年生は大阪府助産師会、５年生は大阪府こころの健康総合センター、６年生は東京学芸大学附属国際中等教育学校からそれぞれ講師を招へいし、２年生は学校歯科医にお願いして「いのちの授業」を実施した。それぞれの学年の発達段階に応じた指導により、子どもたちにとって命の大切さと人権感覚を身につける大切な時間となった。 　情報モラルの指導については、本年度も全校生を対象に学習会を行った。各学年とも、児童の発達段階に応じた学習会を実施することができた。
		【今後の改善方策(Action)】 　児童は全体的に落ち着いて学校生活を送っているが、毎月の職員会議では数件、職員間で情報共有するべき報告事項があった。今後も、職員間で情報共有し、多くの教員の目で児童を見て学校全体で解決にあたる体制を継続していきたい。 　人権教育に関わるカリキュラムについては、ねらいや内容を全体で共有し、部会を中心に精査してより良いカリキュラムにしていきたい。
イ　よりよい学校生活を築く態度を育成する特別活動の推進 【評価指標】 ・　集団への所属感や望ましい人間関係育成のための行事開催 ・　児童の自主性及び児童相互のつながりを育むための集団活動の実施 　委員会・・・隔月１回実施 　クラブ活動・・・年７回実施 　全校縦割り活動 　　・・・年５回実施		自己評価
		【取り組み状況(Do)】 　各学級・学年で年度当初に年間目標を考え、主体的・協働的に学校生活を送ることができるようにしている。宿泊学習については、２年生の高槻（１泊２日）・３年生の奈良（１泊２日）、４年生のスキー合宿（２泊３日）、５年生の福井（３泊４日）、６年生のニュージーランドへの修学旅行（４泊７日、機内泊２）を実施することができた。 　５、６年生による委員会活動、４年生以上によるクラブ活動を予定通り実施した。 　本年度の特別活動は、「学級･学年にとどまらず、縦割り活動等に積極的に取り組み、仲間意識や所属感の醸成を図る」ことを大切に、「たてわり」活動を充実させることにした。 　また、文化鑑賞会については、本年度は全校生で南座（京都）へ行き、歌舞伎「あらしのよるに」を観劇した。

		【達成状況(Check)】（○） コロナ禍以降、宿泊学習の日程を短縮したり、海外修学旅行の行き先を国内に変更したりするなどの対応をしてきたが、本年度はコロナ禍前と同様の宿泊学習を実施することができた。 ５年生の宿泊学習は、日程を一日延ばして３泊４日とするとともに、３泊のうち２泊を民泊とした。また、６年生の修学旅行の行き先も５年ぶりに海外にもどすことができた。ニュージーランドでの４泊のうち、２泊はホームステイ。２人１組で現地の方にお世話になった。５年生・６年生ともにホテル泊では味わうことのできない貴重な体験をすることができた。 本年度も昨年度に引き続き、特別活動は「たてわり」活動を充実させるため、「全校縦割り活動」の実施回数を増やし、年間9回実施した。 また、本年度も運動会を「子どもたちの主体性を尊重する運動会」とし、取り組みを進めた。縦割り班の仲間意識を育むための「縦割り競技」の実施、団体競技の種目を学年担任と子どもたちの話し合いで決定するなど、昨年度の取り組みを継続して行った。子どもたちの主体性を尊重するという趣旨の、子どもたちが種目を選んで出場するエントリー競技も実施し、エントリー競技の内容も、６年生の運営委員会で話し合って決定するなど、子どもたち主体の運動会は、子どもたち、保護者にも非常に好評であった。 本年度の観劇は、全校生で南座（京都）へ行き、歌舞伎「あらしのよるに」を観劇した。子どもたちが本物にふれるという観点から、劇場に全員で足を運んだのは、価値のある活動だと捉えている。
		【今後の改善方策(Action)】 学校行事については、文化祭、運動会等において全児童が十分に力を発揮し、達成感を持ち自尊感情を高めることができたと考えている。今後も引き続き継続していきたい。 また、全校生での観劇については来年度以降も継続していきたい。

（３）　重点目標③：管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること

取り組み計画及び評価指標(Plan)		自己評価
ア　安心・安全の学校生活を構築するための安全管理・指導		【取り組み状況(Do)】 登下校のマナー指導や危機対応については、日常の学級指導の他に、全校集会やテレビ放送で具体的な指導を継続して行い意識

【評価指標】 ・ 児童の安全管理に関する定期的な訓練及び指導の実施（年３回実施） ・ 教育後援会（保護者）との連携及び啓発（地区委員会による通学見守り活動や啓発活動の実施）	の向上を図った。また、学校だより「初等部だより」・生徒指導通信「関大っ子」により、安全に関する保護者啓発を進めた。また、例年に引き続き教育後援会主催で「子ども見守り活動」・「関大っ子登下校等安全見守り活動」が行われた。 本年度の４月、電車・バスの乗車マナーについての苦情電話やメールが学校にあったため、通学時間帯の当該電車に本校教員が同乗して指導するなど、電車内や駅のホームでのルールやマナーの徹底を行った。 管理面では、地震・火災等の避難訓練等を実施し、万全を期すよう努めている。
	【達成状況(Check)】（○） 登下校のマナー指導や危機対応については、学級指導・全校集会・テレビ放送などで具体的に「こんなときにはどうするか？」を子どもたち自身に考えさせる指導を継続して行った。その際、一方的に教えるだけでなく、自分自身の行動を見つめ直させ「考動」できるよう意識づけを行った。 また、一方で、電車やバスの乗車マナーについては、学校への苦情電話・メールの情報をもとに、具体的な電車・バスの時刻を特定して、当該児童に対して個別指導するとともに、実際に通学時間帯の電車に教員が乗り込み、子どもたちに直接指導を行うことで乗車マナーの徹底を目指した。 教育後援会による「子ども見守り活動」・「関大っ子登下校等安全見守り活動」については、学年・クラスごとに見守り期間を設定していただくなど、保護者の方が積極的に子どもたちの見回りに取り組めるよう工夫をしていただいた。また、「子どもの登下校マナー向上活動」の一環として、「わたしの登下校マナーアップ宣言！」と題した「登下校マナー川柳」や「登下校マナーポスター」作品作りを通して、子どもたちだけにとどまらず、親子で登下校時の安全について考える機会を設定していただいた。 全校一斉下校指導については、下校経路ごとの小グループに分かれ、高学年がリーダーとなり、緊急時の下校体制について確認することができた。 地震・火災発生時の避難訓練については、「関大防災Day（11月15日）」には初等部・中等部・高等部・社会安全学部という高槻ミューズキャンパス全体での避難訓練を実施することもできた。また、初等部独自の地震避難訓練も１月17日に実施し、地震の際に留意すること、避難経路の確認をすることができた。

		【今後の改善方策(Action)】 校内・登下校時の基本的なルール・マナーについて、全教員の共通認識のもと、日常の学級指導や全校集会での指導について改善を進めたい。 また、教育後援会との連携を深め、登下校見守り運動の継続や保護者の意識向上等、学校と家庭が一体となった安全管理及び安全指導の充実を図っていきたい。
イ　安心・安全の学校生活を構築するための給食・アレルギー対策の実施 【評価指標】 ・　アレルギー対応についての教員研修の実施及び職員会議における教員の情報共有 ・　業者及び保護者との連携によるアレルギー対策の徹底（給食業者との月１回の調整会議を実施）		自己評価
		【取り組み状況(Do)】 給食業者が新しい業者に変わって３年目となった。これまでと同様に、業者との連絡・調整を密に行い、アレルギー対応について万全を期すなど、安全・安心な給食の提供を目指した。 給食管理・指導については、養護教諭と管理栄養士が中心となり、業者との打ち合わせと定例の会議を行っている。アレルギーをもつ児童に対しては、全教員が各児童の状況を認識するとともに、代替・除去等が見える形で配膳して安全管理を進めている。また、前年度末に集めた児童のアレルギー状況についての書類をもとに、本年度の対応策について確認している。
		【達成状況(Check)】（○） 給食業者との連絡・調整を密にとることで、安全・安心な給食が提供された。 給食に関する日常的な打ち合わせ及び月１回の定例の給食会議では、よりおいしい給食を目指した献立作成はもとより、アレルギー対応等についても常に情報を共有し、その結果を当該児童の学年団に伝えている。 今年度も、４月４日に全教員が参加してエピペン研修を実施し、緊急時の対応について共通確認をした。
		【今後の改善方策(Action)】 本年度、学校給食についてはアレルギー対応の大きな問題はなかったが、気を緩めることなく、引き続き万全の対応を心がけたい。 エピペン持参の児童も在籍しているので、救急体制についても全教員で共通理解できるよう努める。また、アレルギー対応だけでなく、給食のメニュー向上に向けても引き続き、業者との連携を進めていきたい。

ウ　より多くの出願をめざす入学試験の実施 【評価指標】 ・　新しい入学試験内容・方法の確立 ・　入試広報戦略の検討及び効果的な広報活動の実施 ・　年４回の学校説明会、オープンスクールの実施 ・　年 50 回以上の幼児教室訪問	自己評価 【取り組み状況(Do)】 本年度も学校説明会・オープンスクール・入試説明会を実施した。昨年度と同様に、学校説明会終了後にはグラウンドを開放して自由に子どもたちが遊べる時間帯を設定した。 本年度、新たな取り組みとして「体験授業DAY」を日曜日に実施した。 また、広報活動として、本年度も幼児教室関係者と連絡を密に取り、情報交換を行った。 入学試験については、一昨年度からＡ日程入試(９月実施)とＢ日程入試(１月実施)の２回実施することで、より多くの受験者を得ることを目指した。 【達成状況(Check)】（◎） 学校説明会１（３月17日）・学校説明会２（５月19日）、オープンスクール（６月８日）では、人数制限を設けずに実施することで多くの方に申し込みいただいた。申し込み数は学校説明会１（526名）・学校説明会２（505名）、オープンスクール（576名）である。入試説明会については、耐震工事のためアリーナが使用できないため人数制限を行ったため、申し込み者数は354名であった。 学校説明会、入試説明会では、多くの参加者から好意的な感想をいただいた。一部を紹介すると、「思考力について、貴校のように、どのような手法を用いて、どのような力を伸ばすか明確にされている学校は他にはないと思います。シンキングツールで自分の考えを持ち、また他の人の考えを聞き、違う意見についても話し合い、理解することは魅力的でした」「先生方の熱い思いが聞けてとても感激しました。何を学ぶのか、なぜ学ぶのかなど、子どもの未来を想像しながら考えさせられました」「『今　できる最高の教育を子どもたちに』という貴校の姿勢、それだけでなく、教育に対する決断の速さと応用力に感動いたしました」などである。 また、６月29日に実施したICT活用に関する公開授業（“Think×Act”×CREATION 2024）でも、教育関係者に加え、小学校受験に興味のある保護者の方にも参観いただいた。オープニングで６年生二人が行ったスピーチに対して、保護者の方から「６年生による堂々としたスピーチは、聴いていて引き込まれる大変素晴らしい内容でした。以前先生方が『シンキングツールを用いた授業を学んでいると、自然とスピーチが上手くなる』と

		おっしゃっていたことが良く理解できました。」「２名のプレゼンターの児童のプレゼン能力には驚きの連続でした。プレゼン制作にもシンキングツールを用いられていると話していて、思考のプロセスが身についているから、あの様な素晴らしい資料を制作することが出来るのだなと、改めてICT教育の素晴らしさを肌で感じました」など好意的な感想を多くいただいた。 本年度の幼児教室訪問は70回以上、幼児教室関係者とのメール送受信記録は４月１日以降150通を超えている。各幼稚園や幼児教室等に働きかけ、本年度新たに３カ所の幼稚園や幼児教室等で学校説明会を実施した。本年度は合計32回（オンラインも含む）の説明会を実施した。 本年度は、60名定員のＡ日程募集に対して158名の出願があった（出願倍率2.6倍）。Ａ日程の出願倍率2.6倍は、昨年度に引き続き関西の私立小学校では最も高倍率である。３年連続で出願倍率2.5倍を超えることができていることからも、広報活動によって、多くの方に本校の魅力を伝えることができていると捉えている。 また、若干名のB日程募集に対しても18名の出願があり、昨年度同様に多くの方に本校を志望いただくことができた。
		【今後の改善方策(Action)】 説明会でのアンケート調査や各幼児教室の関係者からの情報では、今年度も他の私学にはない本校の思考力育成の取り組みに魅力を感じるという感想に加え、コロナ禍における本校の迅速な遠隔授業の実施、充実したICT環境などを高く評価する感想が多くあった。 関西の私立小学校に関する入試状況は厳しいが、今後も出願倍率は最低でも 2.5 倍、可能であれば３倍以上の確保を目指して、引き続き本校の魅力について発信していくとともに、教育活動のさらなる充実と効果的な広報活動を進めていきたい。
エ　中等部・保護者・大学との連携の充実 【評価指標】 ・　管理職連携（週１回の初中定例会議等の実施） ・　教育後援会との密な連携（管理職、事務職、教育後援		自己評価
		【取り組み状況(Do)】 初中定例会議（教頭・事務室）を週１回実施し、連絡調整を行うと共に、初中教頭・教務主任ミーティングも週１回実施することで、初中連携行事等について協議した。 本年度も初等部・中等部・高等部シニアアドバイザーと連携することで、密接な初中高連携を行うことができた。 初等部・中等部の全教員が参加する初・中連携会議も年に２

会役員・委員による月１回の実行委員会実施） ・ 保護者対象の説明会の充実（５、６年生保護者に加え、全校保護者対象の会を実施） ・ 教育活動の様々な分野における大学との連携（高学年における留学生との交流、４年生社会・道徳の小大連携）	回実施し、情報交換及び初等部・中等部の連携の具体的方法について検討した。 保護者との連携では、担任はもとより教科の担当教員が必要に応じて保護者に連絡をとるなど、家庭と密に連絡を取り合っている。また、中等部進学に向けての情報提供の場として５・６年生対象の授業参観を対面形式で行った。 全保護者を対象とした中高等部の教育内容について情報提供する会（お話し会）については、オンラインで３回実施した。一回目は６月に実施し、中高等部の探究学習での取り組みを紹介した。また、初等部・中等部・高等部の卒業生が自分たちの学んだことを保護者向けに語る会を９月に２回実施した（中・高等部主催）。 また、教育後援会との連携では月１回の実行委員会において教育後援会の役員と管理職で情報交換を行うとともに、教育後援会からの学校行事への支援、登下校の見守り、新入学児童への支援、後援会独自の行事等について協議を行っている。 関西大学からは、研究や授業への指導、国際交流支援等を受けている。また、４年生のキャンパス訪問による大学創立に関する学習により、大学への帰属意識を向上させる取り組みも例年通り実施している。
	【達成状況(Check)】（◎） 例年は教科ごとに別々に実施していた初・中連携会議を、本年度は初等部・中等部の全教員が集まり、共により良い連携方法を考えていく機会を設定した。具体的には、校務分掌によってグループ分けを行い、「生徒指導・生活指導」「特別支援教育」「思考力・探究活動」「国際理解教育」「学力向上」「特別活動」の６つの分科会に分かれて情報交換、今後の方向性の確認などを行った。 国際理解教育分科会では「本年度、中高等部に来校した韓国の高校生が初等部３年生と交流した」ことなど、情報を共有して連携できたことを踏まえ、今後も同様に情報共有して国際交流を進めていくことを確認した。その他の分科会においても、有益な情報交流を行うことができた。 英語科においては、昨年度からスタートした「中高等部の文化祭における初中高等部生の英語スピーチ」という取り組みに加え、本年度初めて、初中高等部の英語の授業を外部向けに公開し、研究協議を行う取り組み「関西大学初等部・中等部・高等部外国語科公開授業研究会」を実施することができた。

		また、例年実施している「初等部・中等部対抗百人一首大会」でも、大会当日だけでなく、事前に顔合わせをして合同練習をするなど、初等部生と中等部生がより打ち解けられるような試みも実施することができた。 保護者との連携については、学校と教育後援会との連携行事や学校ホームページや登下校メール、学年ブログ等による密な情報提供により、学校・保護者間で信頼関係を築くことができている。 大学との連携については、４年生が毎年千里山キャンパスで学ぶことや研究発表会の当日だけでなく、初等部全教員が行う授業研究において関西大学の黒上晴夫先生・岩﨑千晶先生から指導助言を受けてきた。また、前述した「関西大学初等部・中等部・高等部外国語科公開授業研究会」では、関西大学外国語学部の今井裕之先生から指導助言をいただいた。 また、本年度も社会安全学部の城下英行先生のゼミ生を初等部に招き、各学年に安全に関するワークショップを実施してもらった。子どもたちは身近な大学生に教えてもらうことで、楽しみつつ安全な暮らしについて学ぶことができていた。 最後に、初中高大の連携に関しては、本年度、「初等部から大学までの一環したAIリテラシー教育及びAIガイドラインを策定することで、児童・生徒・教職員のAI活用能力を向上させる」ことを目指して、初中高大学が連携する「AIリテラシー、AIガイドライン策定委員会」を10月に立ち上げることができた。メンバーは、初等部から管理職・研究部・ICT部、中高等部から管理職・情報推進委員、大学から教育推進部のライティングラボ担当、事務職として初中高事務長である。 現在、日本では初中高大学まで連携した「AIリテラシー、AIガイドライン」を策定するに至っていない中、全国に先駆けて本年度中に初中高大学まで連携した「AIリテラシー、AIガイドライン」を策定し、日本教育工学会2025年春期全国大会（2025年３月８日・９日開催）で研究成果を発表した。 以上のように初中高大学との連携は、例年よりも大きく進んだ一年であった。
		【今後の改善方策(Action)】 初中連携について、管理職間の協議で課題の共通認識と方策について検討する機会を定着させる。 中高等部主催で実施する初等部卒業生と教員による座談会な

		ど、今後も保護者向けのより良い情報提供の方法を模索していく必要がある。 保護者連携については、学校と家庭との連携とは別に、保護者同士の円滑な関係づくり、連携や、マナーについての啓発を教育後援会との連携により継続して進めていきたい。 また、大学との連携については、教員の指導力向上や児童の学習活動充実のために、さらなる連携を検討していく。

3　アンケートの実施状況

保護者アンケート・教員アンケート・児童アンケートは、それぞれ１月 14 日から１月 21 日に実施した。本年度も昨年度同様に Google フォームを使用した。

保護者アンケートの回収結果は、全 368 名中 362 名提出、回収率 98%で、昨年度より 3 ポイント増加した。教員アンケートは回収率 100%である。また、児童アンケートについては、４年生から６年生を対象とし、風邪・発熱等で欠席・出席停止となっている児童がいたため回収率は 98%（児童数 181 名中 177 名提出）である。

アンケート項目・内容については、それぞれ教員 40 項目、保護者 32 項目とし、例年と同じく観点を揃えて対比させた。評価については、３種類のアンケートとも４段階評価としている。(「よくあてはまる」「ややあてはまる」「あまりあてはまらない」「まったくあてはまらない」)

項目・内容については、いずれも職員会議で検討・承認されたものである。

4　アンケート結果の分析

ア　教員・保護者アンケートについて

保護者アンケートの回収率 98%は、保護者の皆様の本校教育に対する関心の高さを裏付けるものだと捉えている。今後も「学校と家庭で同じ方向を向いて子どもを育てることが大切」というメッセージを伝えていきたい。

教員アンケートの母数は 22 名のため、１人分の回答が約４%である。それに対して、保護者アンケートは母数が 362 名のため、１人分の回答が約 0.28%、15 人分の回答が約４%にあたる。教員アンケートについては、学校関係者評価委員（2023 年度）より「１人の回答で数パーセントの変化が生じることから、細かな数字を見るよりは、大きく全体を見た方が良いのかもしれない。例えば、否定的な評価が半数を超えるような場合は、改善すべき課題と見て良いのではないか」とのご意見をいただいている。数字の変化だけに一喜一憂すること無く、冷静に分析をしていきたい。

アンケート全体を通して、保護者の評価は肯定的評価が 90%を超えるものがほとんどであり、これまで進めてきた初等部の教育活動に高い評価をいただいたと捉えている。教員の評価は多少の数字の変動はあるが、全体を通してほぼ昨年同様の結果となっている。

以下、アンケート結果についての分析を述べる。

No.１は本校の私学としての独自性・認知度を、No.２、３は初等部教育全体に対する納得度・ 満

足度を尋ねている。保護者についてはいずれも肯定的評価が 97～99%と高い評価となっている。今後も、保護者の満足度が高まるように取り組みを進めていきたい。

教員については、No. 2（公立や他私学に負けない教育）が４ポイント減となっている。「公立や他私学に負けない教育」は、本校教育の根幹に関わる部分である。肯定的な評価が 100%になるよう、取り組みを進める必要がある。

No. 4から No.15（保護者は No. 9、10 は無し）までは、学級経営・学習習慣を基本としてどのような学力向上策がとられたかについての項目である。保護者評価は、ほとんどの項目で肯定的評価が 90%を上回っており、初等部の授業、取り組みに対して満足していただいている現れだと捉えている。ただし、No.11（コミュニケーション技能を重視するなど、工夫した英語の授業）については３ポイント減となっており、来年度に向けての課題と捉えている。一方で、No.14（人間性の育成や思考力育成の礎としての積極的な読書指導）については４ポイント増となっており、本年度の取り組みの成果が数値に表れたものだと受け止めている。

教員については、No. 9（中等部接続に向けたカリキュラム作成）、No.10（初等部一貫の英語 カリキュラム作成）が昨年度に引き続き低評価となっており、大きな課題だと受け止めている。ただし、低評価ではあるが、No. 9が肯定的評価が８ポイント増となっている点は明るい兆しである。この点については、本年度の初等部・中等部連携の取り組みの成果だと捉えている。

No.17～21 は生徒指導及び特別活動に関する項目である（保護者は、No.21 無し）。保護者評価は昨年同様に肯定的評価が 90%を超えており、生徒指導・特別活動の指導に一定の理解を示していただいていると捉えている。No.19（下校時のルールなどの適切な指導）については、保護者が４ポイント増、教師も８ポイント増となっており、教育後援会による「子ども見守り活動」や教員による地道な下校指導の成果が数値に表れたものと受け止めている。

No.22～27 の道徳教育、人権教育、健康教育に関する項目については、No.27（健康や食に対する食欲・関心を高めるための取り組み）が、保護者２ポイント、教員８ポイントと肯定的評価が増えており、食育の取り組みの成果だと捉えている。

No.28 から No.32（保護者は No.28、30 無し）は安全管理に関する項目である。保護者については、いずれも肯定的評価が 95%以上と高い評価となっている。その中では、No.31（警報発令時の登下校指示）の肯定的評価が３ポイント減となっており、来年度はより良い評価となるよう、取り組みを改善していきたい。

No.33,34,35（保護者は No.34 無し）は教員研修に関する項目である。保護者評価はいずれも肯定的評価が 98%を超えており、本校の研究を好意的に受け止めていただいていることがうかがえる。

No.36（中等部進学に向けた適切な情報提供）は進路指導、特に保護者に向けた情報提供に関する項目である。保護者の肯定的評価が19ポイント増、教員の肯定的評価が13ポイント増となったのは、本年度、情報提供会（お話し会）を夏休み明けに２回実施するなど、取り組みを大きく改善した結果だと捉えている。

No.37（保護者は無し）は入試・広報活動についての項目であり、肯定的評価が２年連続で 100%となったのは、計画的な入試・広報活動ができていた成果であろう。

No.38（保護者は無し）は関西大学との連携に関する項目である。否定的な評価が 17%あり、まだまだ課題が残る項目である。しかし、この項目は一昨年度まで「否定的な意見が 50%以上」の年もあった項目であり、一昨年度以前と比べると現在の連携は順調に進んでいると捉えている。本年度

も、昨年度から始まった社会安全学部の学生による安全に関するワークショップの実施などの連携ができているので、この連携を継続するとともに、新たな大学との連携方法を模索していきたい。

No.39, 40 は教育後援会との連携及び学校と家庭との連絡や相談に関する項目である。どちらの項目も保護者の肯定的評価が 98%、教員の肯定的評価が 96%以上となっている。来年度以降も、本年度同様の結果がでるよう良好な関係を継続させていきたい。

イ　児童アンケートについて

まず、アンケート項目について、述べる。

学校関係者評価委員（2023 年度）から、No.10 の質問文「いじめやなかまはずれなどをしていませんか」という質問だけでなく、「いじめやなかまはずれをされていないか」という「された側」に対する質問が必要とのご指摘をいただいた。この点については、ご指摘を受けて検討したが、年に２回実施している「児童生活アンケート」において「いじめやなかまはずれをされていないか」という「された側」に対する質問を実施しており、さらに「どのようないじめを受けたか」という具体的な記述も求めていることから、子どもたちにとっては２重に答えることになるため、児童アンケートの項目として設定しないとの結論に至った。

また、2023 年度までの No.６の質問文「いろいろな本を読んだり、学習に本や資料を活用したりできましたか」には、「いろいろな本を読んだか？」「学習に本や資料を活用したか？」という二つの問いが含まれている（ダブルバーレル質問）。高学年になると、「いろいろな本を読んだが、学習には本やアナログ資料よりも主に ICT を活用した」という子どももいることも想定されるため、No.６の質問文を「本や資料を、必要に応じて活用することができましたか」と修正した。No.６の質問文の記述は、No.７の質問文「iPad やパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか」と対応させたものである。

次にアンケート結果の分析について述べる。

10 項目中、肯定的評価が 90%を超えている項目が昨年度は７項目であったが、本年度は 10 項目となっている。この結果から、どの学年の児童も学校生活や自身のがんばりを概ね肯定的に評価していることがわかる。

No.１、No.２は、初等部での在籍及び学校生活についての評価である。No.１（関西大学初等部に入学して良かった）の肯定的評価が 99%、No.２（学校は楽しいですか）が 96%となっており、学校として大変嬉しく感じている。それぞれ、昨年度から No.１が６ポイント、No.２が４ポイントアップしており、本校の教育活動を子どもたちが好意的に受け止めていたと捉えている。No.１、No.２については、100%を目指し、取り組みを進めていきたい。

学習に関する項目では、No.３（勉強意欲）が 92%、No.４（思考力がついたか）が 93%の肯定的評価となっているが、それぞれ 100%にできる限り近づくよう取り組みを進めていきたい。No.５（授業評価）の肯定的評価が 97%となっており、昨年度の 89%から８ポイント増加している。本年度、「学費に見合った教育を行うこと」ことを最低限のラインとして授業改善に取り組んできた成果であろう。

No.６（読書や資料活用）は昨年度よりも肯定的評価が６ポイント増、No.７（ICT 活用）の肯定的評価が４ポイント減となっているが、No.６のアンケート項目を変更したこともあり、本年度以

降の評価がどのようになるかを見守っていきたい。

No. 8（運動会や文化祭などへの参加意欲）については96%が肯定的評価となっており、昨年度よりも4ポイント増である。本年度も昨年度に引き続き「児童主体の運動会」として実施したことがポイントアップにつながったと捉えている。

No. 9（学校生活のルール遵守）については肯定的評価が昨年度から7ポイント増の95%となっている点は、学校の指導だけでなく、児童の意識の高まりを感じ取ることができる。

No. 10（いじめやなかまはずれ）については肯定的評価が昨年度同様に94%となっている。当然、100%が肯定的な評価となることを目指していくのだが、いじめ・なかまはずれが起こってしまった場合は、児童が自分自身の言動を自覚し、改善する必要がある。否定的な回答をした児童については、学校の指導により自分自身の言動を見つめ直した結果だと捉えている。

5　学校関係者評価委員会からの評価結果

（1）自己評価の結果を受けて

ア　重点目標①：「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、主体的に授業研究に取り組むこと」について

・研究発表会には、教育関係者が約370名、受験希望の保護者が約50名、計420名ほどの参加があったとのこと。昨年から少し減少したものの、在校生の保護者を含まずにこれだけの人数が参加するのは非常にありがたいことで、初等部の教育が注目されていることの表れと考える。

・研究発表会では、例年、中等部１年生から３年生で１クラスずつ、合計３クラスの授業を公開されていたが、今年度は、国語、数学、理科、社会、英語、保健体育の合計６クラスの授業を公開されていた。初等部卒業後、中等部での授業イメージも見ることができ、とても良い取り組みであると感じた。

・全国学力・学習状況調査結果について、昨年度は国立小学校とほぼ同得点となっていたが、今年度は国立小学校の平均点を大幅に上回る結果を残すことができた。これは教員アンケートの質問項目⑤「確かな学力をつけるための工夫された授業が行われているか。」の評価結果に結びついたものであると考える。

・図書館での教育充実について、子どもたちが楽しめる取り組みを行っている。また蔵書数もデジタル図書を含めると約24,000冊を超えており、文部科学省の定める標準冊数7,920冊の約３倍の蔵書数となっていることは、非常に評価できる。

・国際交流について、６年生は久々に海外（ニュージーランド）での修学旅行を実施することができ、「本物に触れる」ことができた。コミュニケーションにおいては慣れない英語や身振り手振りでも相手に通じることがわかり、現地での活動は非常に大きな経験になったと考える。この経験を活かし、児童間・教員間の交流をさらに深め、国際的な良い人材育成に努めてほしい。

・小さい時からこのような良い交流ができているのは素晴らしいと感じた。モデルとなる教育を先導して進めていただきたい。

イ　重点目標②：「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」について

・特別支援連携会議を校務分掌に位置付けたことについて、児童の特性に応じた対応を行うため、中等部・高等部での取り組み事例を学び、対応を進められていることを確認した。
・運動会については、６年生が中心になって司会をし、責任感を持って運営を行っている様子が見て取れた。縦割り活動に力を入れ、子どもたち主体で実施されていたことが、しっかりと成果として出ていたと感じる。

ウ　重点目標③：「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」について

・研究発表会において、初等部だけでなく、中等部でも多くの公開授業を行ったことについては、初中の連携を強く意識した取り組みであると感じた。
・「子ども見守り活動」について、設定された見守り期間において、保護者が子どもと一緒に登下校をし、その中で気付いた点を学校へ共有し、登下校時の安全管理やマナー指導に活かしていることがうかがえる。昨年までと比べ、今年度は保護者から子どもたちがこんなことができるようになったという前向きな報告を多くもらうことができた。
・入学試験の実施については、大阪府内の私立小学校が入学定員充足を満たすことに苦慮している中、出願状況が引き続き大変好調であったこと、体験授業実施の取り組みや、幼児教室への積極的な広報活動が結果につながったことから、十分に「◎」と評価できる。もちろん広報活動の展開だけでなく、初等部の教育そのものが評価された結果であろうと考える。
・社会安全学部との連携について、昨年度に引き続き、初等部の全学年の子どもたちと学部生が安全に関するワークショップの場を持つことができたのは、とても有意義なことである。大人になってから10歳年を重ねることと、子供が10歳年を重ねることとは大きな違いがあるが、このような環境で初中高大の連携が取れることは、本当に素晴らしいことではないかと感じる。

（２）アンケート結果について

・保護者アンケートについては、回収率が98％と、非常に高い回収率であったことは、多くの保護者が学校教育に目を向けていることがわかる結果である。また、アンケート項目に関する回答としても、ほとんどの項目で90％以上の肯定的評価を得ることができたことは、学校に対する評価の表れと考える。
・「中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われますか。」の項目については、まだまだ不十分ではあるものの、昨年度から保護者アンケートが19ポイント肯定的評価を上げることができたことについては、一定の評価ができる。しかしながら、情報の提供方法がYouTube配信であったことから、以前のようにリアルタイムでの開催を検討したり、実施方法について保護者へアンケートを取ってみてはどうか。保護者目線としては「ここでこういう子に育てたいから入学させた」ということがうまく伝わり、初中高連携の方針を明確にしたうえで、いろいろな角度から情報提供の場を設けることができるよう、努めてもらいたい。
・教員アンケート問９「中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。」については、肯定的な意見が71％となっており、カリキュラム連携への取り組みにはまだ課題があるのではないかと感じる。今後、本校のブランド力を高め、他校との差別化を図るためにも中高等部において、明確な目的を決め、さらに初中高の教員間で行事等におけるコミュニケーション

の向上を図ることで、児童・生徒の考動力を身につけるための連携を進めてもらいたい。

［学校関係者評価委員会委員名簿］

氏　　名	所属及び役職
土　井　六　三	高槻市磐手地区コミュニティ協議会　会長 高槻市古曽部町自治会　会長
大中原　雄　高	関西大学初等部教育後援会　会長
城　下　英　行	関西大学社会安全学部　准教授　※評価結果とりまとめ執筆者
長　戸　　基	関西大学初等部　校長

6　校長の意見書

関西大学　初等部
校長　長戸　　基

保護者・児童によるアンケート結果、教員による学校・教育活動評価の結果に加え、学校関係者評価委員の皆様からいただくご意見は初等部の学校運営・教育活動の改善に向け、貴重なものであると考えている。

重点目標①：「本校教育の柱である思考力育成の取り組みのさらなる充実を図るとともに、主体的に授業研究に取り組むこと」に関して、「研究発表会」「全国学力学習状況調査の結果」「図書館教育」及び「国際交流」それぞれに過分なお言葉をいただいたことは、学校にとって非常に嬉しい評価である。今後も研鑽を怠ることなく、思考力育成の取り組みを充実させていきたい。

重点目標②：「良好な校風醸成の基盤となる生活規範、倫理観、人権意識の向上等について全教育活動を通じて推進すること」に関しても、「特別支援連携会議」「縦割り活動」について、好意的な評価をいただいた。

重点目標③：「管理面・指導面について継続的に改善を図るとともに、中高等部・大学及び保護者との連携を意識した学校運営体制を整えること」に関しては、「研究発表会において中等部から６つの公開授業を行った」ことをもとに、初中連携が進んでいるとの評価をいただいた。入学試験の実施については、「大阪府内の私立小学校が入学定員充足を満たすことに苦慮している中、出願状況が引き続き大変好調であったこと、体験授業実施の取り組みや幼児教室への積極的な広報活動が結果につながった」ことから、十分に「◎」と評価できるとの評価をいただいた。また、「もちろん広報活動の展開だけでなく、初等部の教育そのものが評価された結果であろう」との好意的な評価もいただいている。

社会安全学部との連携についても、「昨年度に引き続き、学部生による安全に関するワークショップの場を持つことができたのは、とても有意義なことである」「このような環境で初中高大の連携が取れることは、本当に素晴らしいこと」との過分な評価をいただいた。今後も初等部教育のさらなる充実を目指して教育活動に取り組んでいきたい。

保護者用アンケートについては、回収率 98%を「多くの保護者が学校教育に目を向けていることがわかる結果」と評価いただいた。一方で、中等部によるお話会（情報提供会）については、「以前のようにリアルタイムでの開催を検討したり、実施方法について保護者へアンケートを取

ってみてはどうか」とのご指摘をいただいた。ご指摘を受け、来年度、改善していきたい。

また、「中等部接続に向けてのカリキュラム連携」についても「児童・生徒の考動力を身につけるための連携を進めてもらいたい」とのご指摘をいただいている。今後も初中高等部のより良い連携を目指し、取り組みを進めていきたい。

以　上

7　アンケート結果

2024 年度 学校評価アンケート質問項目（教員用／保護者用）

2024 年度 学校評価アンケート集計（教員／保護者）

2024 年度 学校評価アンケート質問項目（児童用）

2024 年度 児童アンケート集計

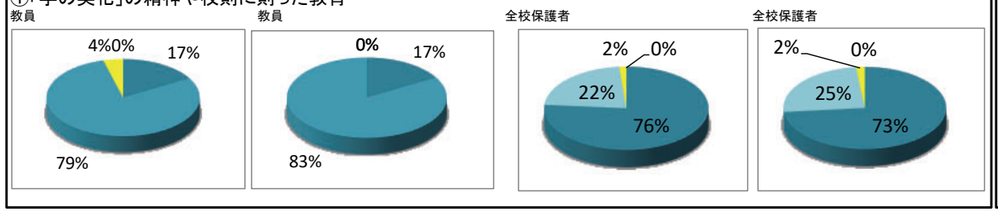
2024年度　学校評価アンケート（質問項目）

教員用		保護者用
◎私学の独自性	①「学の実化」の精神や校訓に則った教育が行われている。	①関西大学の「学の実化」の精神や初等部の教育方針・校訓に沿って教育活動が行われていると思われますか。
（教育方針）	②関西大学初等部では公立や他私学に負けない教育が行われている。	②保護者としてお子さんを関西大学初等部に入学させて良かったと思われますか。
（１）学級経営	③一人ひとりが大事にされる学級作りが行われている。	③お子さんは学校が楽しいと言っていますか。
（２）学力向上	④基本的な学習ルールが学年に応じて身につけられている。	④お子さんの授業中の学習態度はきちんと身に付いていると思われますか。
	⑤確かな学力をつけるための工夫された授業が行われている。	⑤学力をつけるために工夫された授業が行われていると思われますか。
	⑥思考力育成に重点を置いた指導が積極的に行われている。	⑥思考力の育成を重視した授業が積極的に取り入れられていると思われますか。
	⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応がなされている。	⑦シラバスや週案に対応した学習が適切に進められていると思われますか。
	⑧各学年に応じた家庭学習が推進されている。（家庭への啓発、指導等）	⑧学年に応じ宿題や自主学習等の家庭学習を進める指導を行っていると思われますか。
	⑨中等部接続に向けてのカリキュラム連携に取り組んでいる。	
（３）英語教育	⑩初等部一貫のカリキュラム作成に取り組んでいる。	
	⑪コミュニケーション技能の重視など、工夫した英語の授業がなされている。	⑨英語教育では、コミュニケーション技能をはじめ、「話す」「聞く」「読む」「書く」の四技能をバランス良く指導していると思われますか。
（４）国際理解	⑫総合的な学習の時間や英語の授業などで国際理解教育が推進されている。	⑩外国の方との交流など、学年（発達段階）に応じて国際理解学習を進めていると思われますか。
（５）図書館	⑬学校図書館を使って教科学習を含む多様な学習が行われている。	⑪図書館では読書だけでなく、ミューズ学習等、多様な教育が行われていることをご存知ですか。
	⑭人間性の育成や思考力育成の礎として積極的な読書指導が行われている。	⑫読書の時間の設定や電子図書の利用など、学年に応じた読書指導が行われていると思われますか。
（６）ＩＣＴ	⑮学年に応じて多くの教科等で計画的な利用がなされている。	⑬授業等でiPad等の情報機器が効果的に活用されていると思われますか。
	⑯学校の情報がＨＰや学級通信・学年ブログ等によって積極的に発信されている。	⑭HPや学年通信・学年ブログ等から初等部の情報を得ることができていると思われますか。
（７）生徒指導	⑰学校での基本的な生活習慣などの指導が積極的になされている。	⑮挨拶や返事等の基本的な生活習慣の指導が適切になされていると思われますか。
	⑱いじめや不登校などの未然防止や継続的な指導に取り組んでいる。	⑯いじめや不登校が起こらないように未然防止・早期対応等に学校全体で取り組んでいると思われますか。
	⑲通学でのルール遵守やマナーを考えた行動などについて積極的な指導を行っている。	⑰交通ルールやマナーの指導等、適切な登下校指導が行われていると思われますか。
（８）特別活動	⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事に積極的に取り組んでいる。	⑱学年・学級行事や運動会・文化祭などの学校行事が学年（発達段階）に応じて行われていると思われますか。
	㉑クラブや委員会活動において自治意識や友だちづくりを図っている。	
（９）道徳教育	㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成を積極的に図っている。	⑲授業や多くの機会を通じて道徳心の育成を学年（発達段階）に応じて行っていると思われますか。
（１０）人権教育	㉓「いのち」をテーマにした授業に積極的に取り組んでいる。（健康教育とリンク）	⑳学年に応じて「いのちや成長に関する授業」に学年（発達段階）に応じて取り組んでいると思われますか。
	㉔国際交流等を通じ国籍・文化などの違いを認め合う教育を積極的に進めている。	㉑（※2年～6年保護者のみ）国際交流等を通じて、国籍・人種などの違いを認め合う教育を学年（発達段階）に応じて行われていると思われますか。
	㉕学年に応じて、社会における人権問題に関する教育を進めている。	㉒学年（発達段階）に応じて、社会における人権問題に関する教育を行っていると思われますか。
（１１）健康教育	㉖運動に対する意欲・関心を高め、積極的な体力作りや技能向上の指導に努めている。	㉓体育の授業や体育的行事を通して、学年（発達段階）に応じて体力作りを行っていると思われますか。
	㉗「健康」「食」「いのち」に対する意欲・関心を高める取り組みを積極的に行っている。	㉔給食指導など、発達段階に応じた食育に取り組んでいると思われますか。
（１２）安全管理	㉘通学の安全管理のため、各児童の通学路等の集約ができ、随時参照されている。	
	㉙各児童の通学状況が確実にチェックされ、円滑に家庭連絡されている。	㉕ICタグによるチェック等、登下校の状況把握が確実に行われていると思われますか。
	㉚児童自らの危機回避能力の向上のための指導に努めている。	
	㉛警報発令時等の緊急を要する連絡が明確に家庭に伝わっている。	㉖「警報発令時等の登下校について」の内容に沿った運営が行われていると思われますか。
	㉜各種避難訓練や防犯訓練を教育課程に位置づけ、計画的に実施している。	㉗初等部では地震や火災などの避難訓練を適切に実施していると思われますか。
（１３）研修	㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修を積極的に実施している。	㉘教員は授業研究などを通して授業力の向上に努めていると思われますか。
	㉞思考スキルを取り入れた教科指導を積極的に試みている。	
	㉟研究発表大会の成功に向けて全体で積極的に取り組んでいる。	㉙研究発表会は初等部の教育の推進に役立っていると思われますか。
（１４）進路指導	㊱中等部進学に向けて高学年の児童や保護者に対し適切な情報を提供している。	㉚（※5，6年生保護者のみ）中等部進学に向けて必要な情報を得ることができたと思われますか。
（１５）入試広報	㊲計画的な入試・広報活動が行われている。	
・連携	㊳研修等を中心に関西大学との連携が積極的に行われている。	
	㊴教育後援会と適切な連携が行われている。	㉛教育後援会は、教職員と望ましい連携がとれていると思われますか。
	㊵学校と家庭との連絡や相談が必要に応じて適切に行われている。	㉜学校・学級からの連絡が必要に応じて適切に行われていると思われますか。

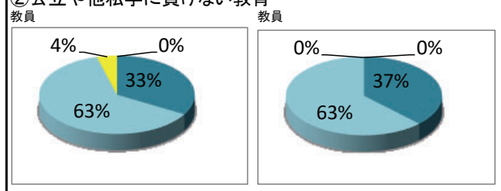
2024年度　学校評価アンケート　集計

よくあてはまる　ややあてはまる　あまりあてはまらない　まったくあてはまらない

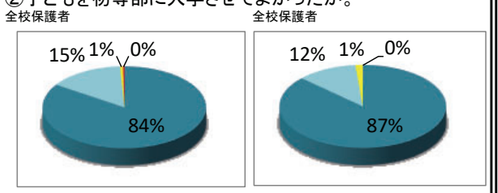
①「学の実化」の精神や校則に則った教育



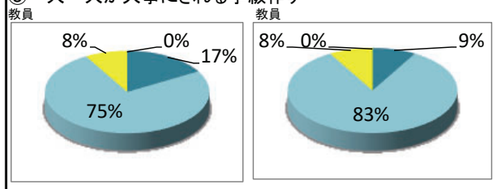
②公立や他私学に負けない教育



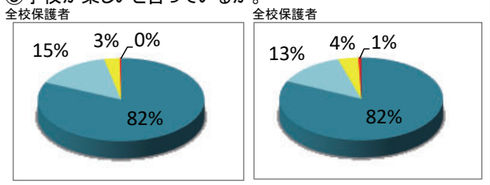
②子どもを初等部に入学させてよかったか。



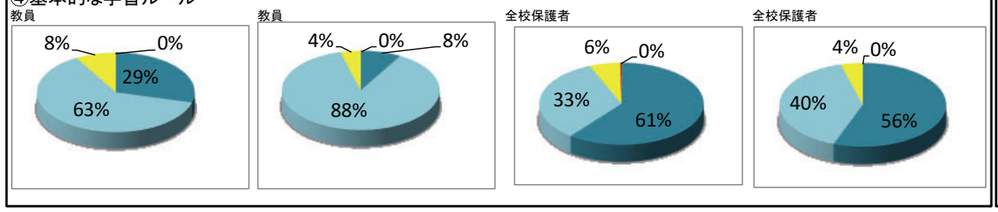
③一人一人が大事にされる学級作り



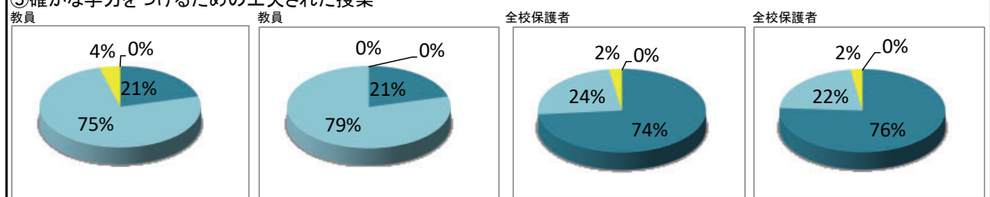
③学校が楽しいと言っているか。



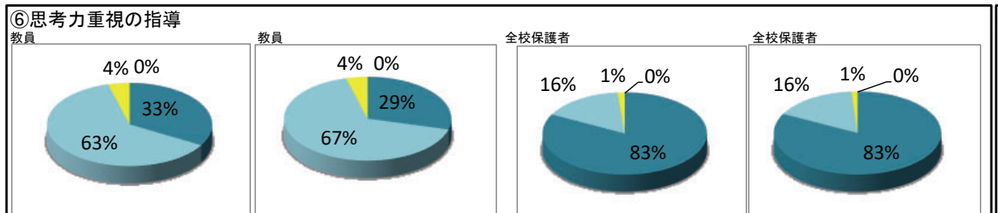
④基本的な学習ルール



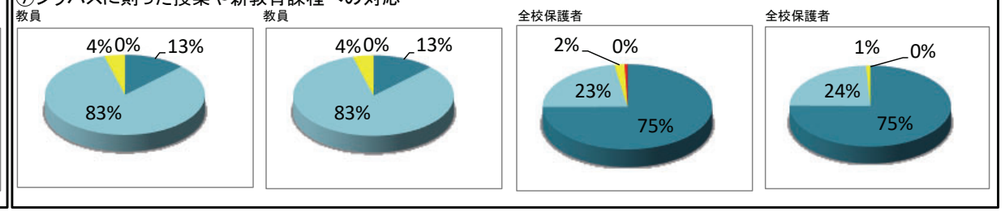
⑤確かな学力をつけるための工夫された授業



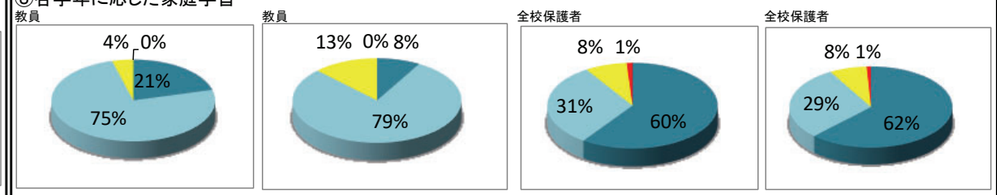
⑥思考力重視の指導



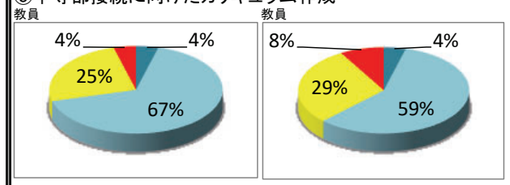
⑦シラバスに則った授業や新教育課程への対応



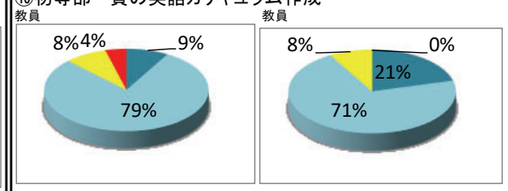
⑧各学年に応じた家庭学習



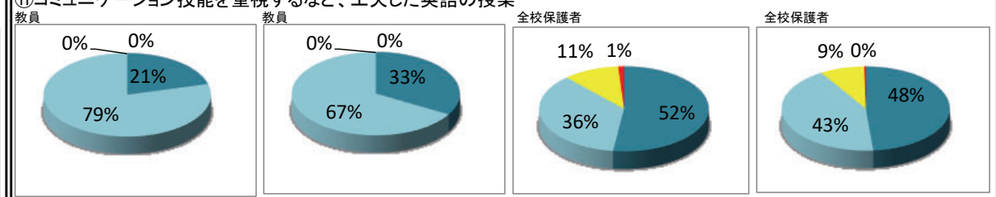
⑨中等部接続に向けたカリキュラム作成



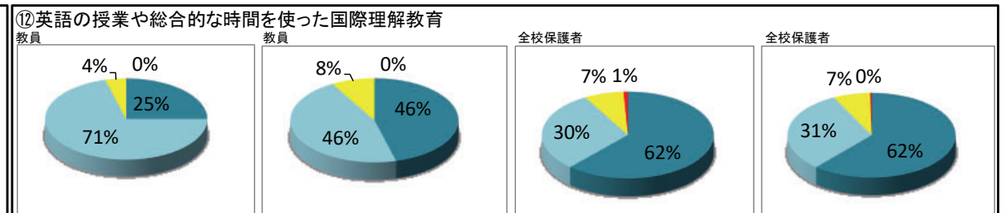
⑩初等部一貫の英語カリキュラム作成



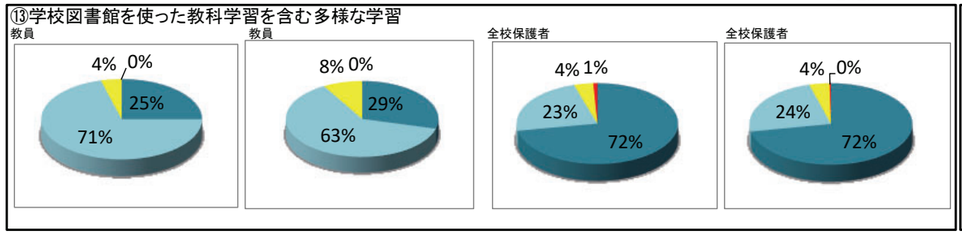
⑪コミュニケーション技能を重視するなど、工夫した英語の授業



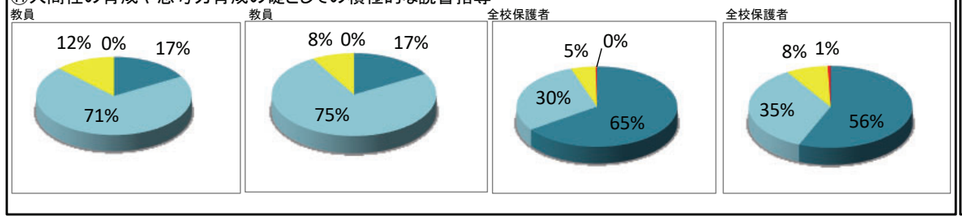
⑫英語の授業や総合的な時間を使った国際理解教育



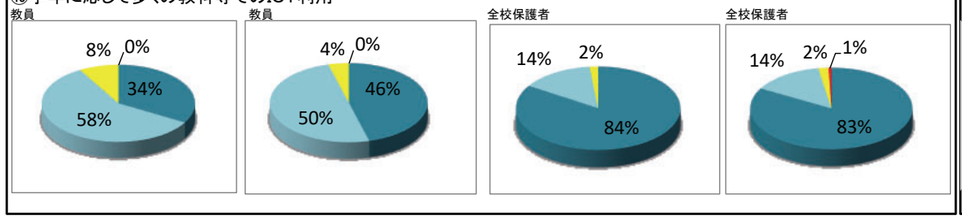
⑬学校図書館を使った教科学習を含む多様な学習



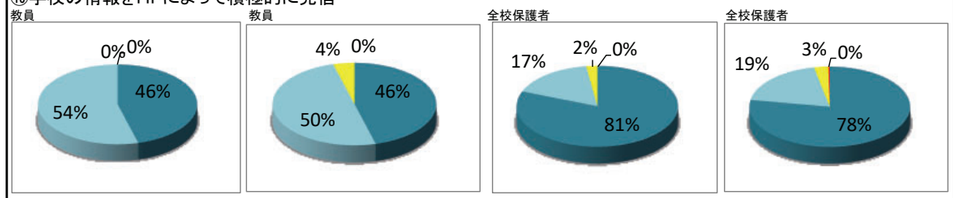
⑭人間性の育成や思考力育成の礎としての積極的な読書指導



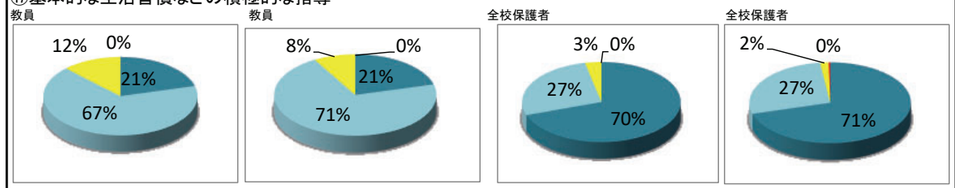
⑮学年に応じて多くの教科等でのICT利用



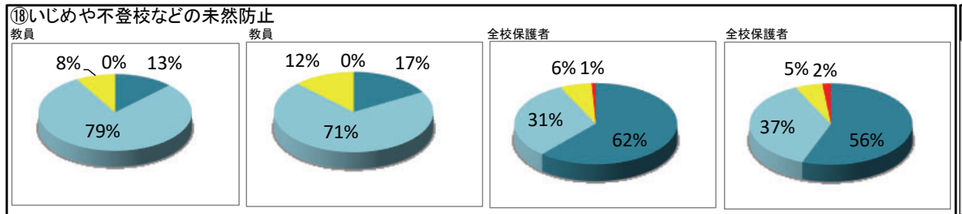
⑯学校の情報をHPによって積極的に発信



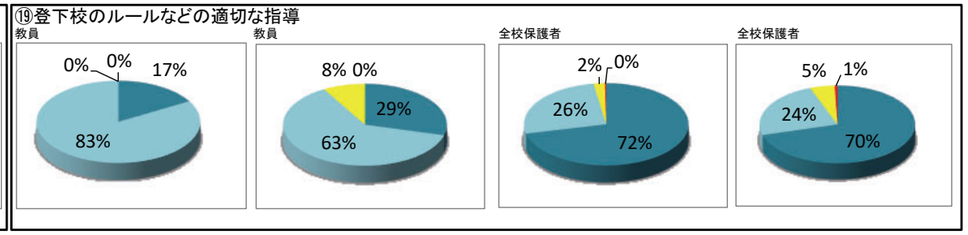
⑰基本的な生活習慣などの積極的な指導



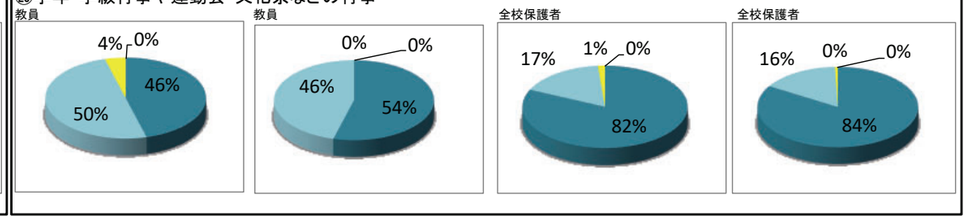
⑱いじめや不登校などの未然防止



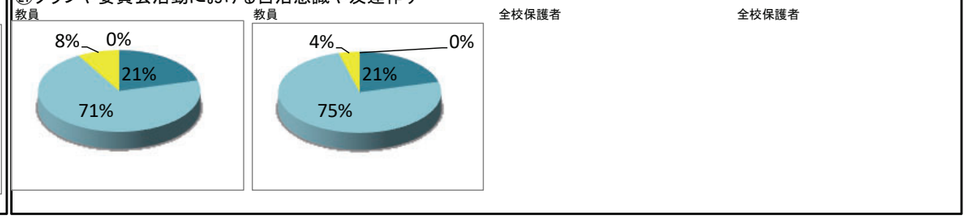
⑲登下校のルールなどの適切な指導



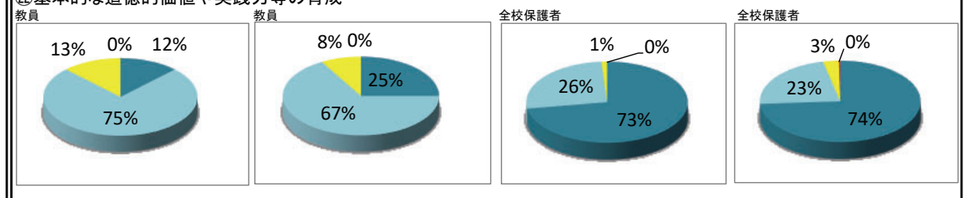
⑳学年・学級行事や運動会・文化祭などの行事



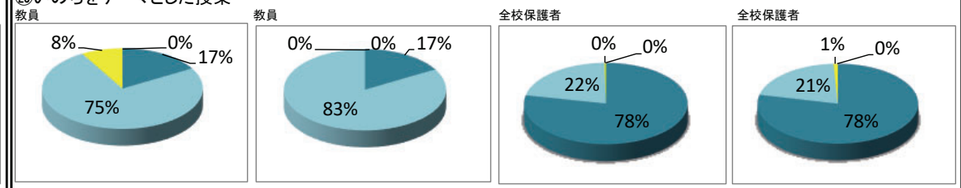
㉑クラブや委員会活動における自治意識や友達作り



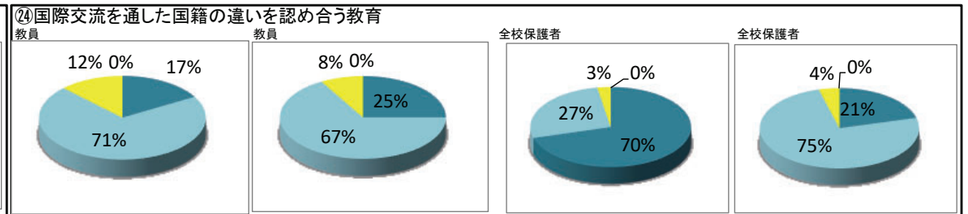
㉒基本的な道徳的価値や実践力等の育成



㉓いのちをテーマとした授業

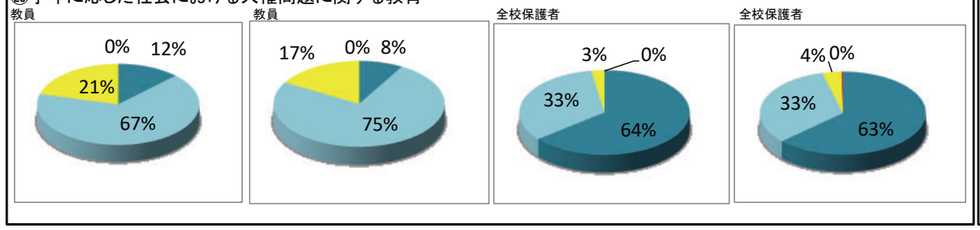


㉔国際交流を通した国籍の違いを認め合う教育



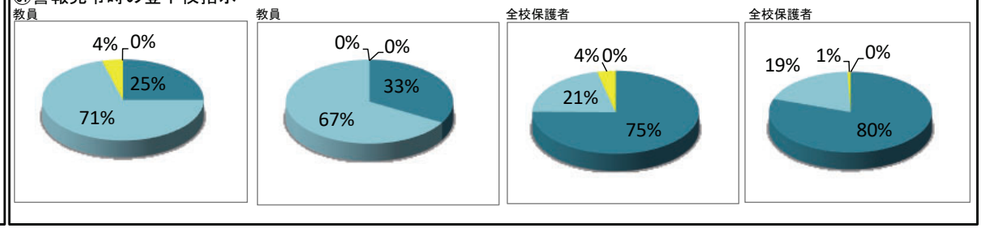
2024 2023 2024 2023

㉕学年に応じた社会における人権問題に関する教育

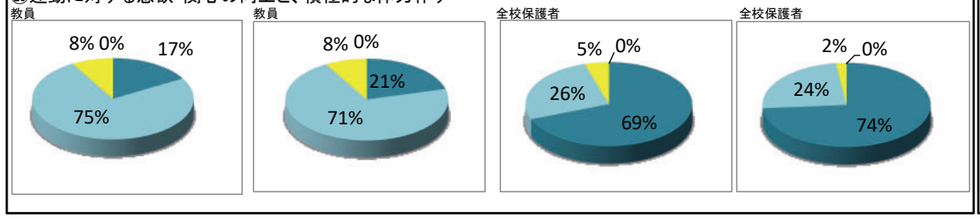


2024 2023 2024 2023

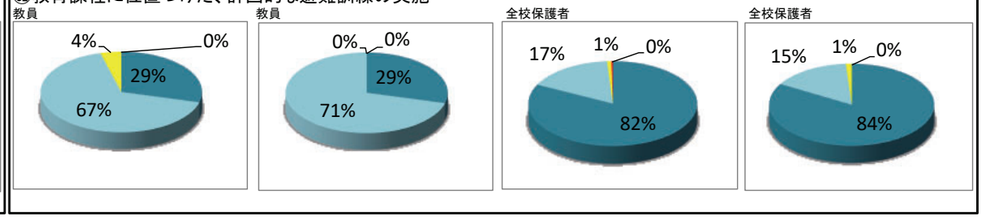
㉛警報発令時の登下校指示



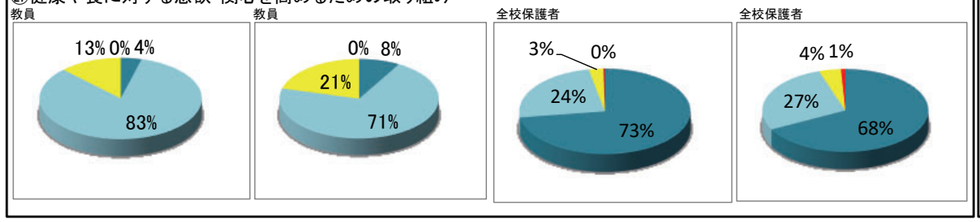
㉖運動に対する意欲・関心の向上と、積極的な体力作り



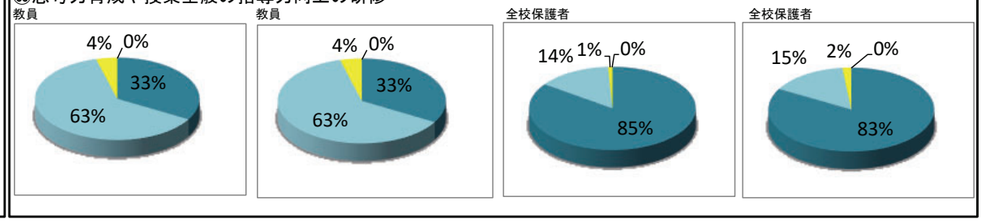
㉜教育課程に位置づけた、計画的な避難訓練の実施



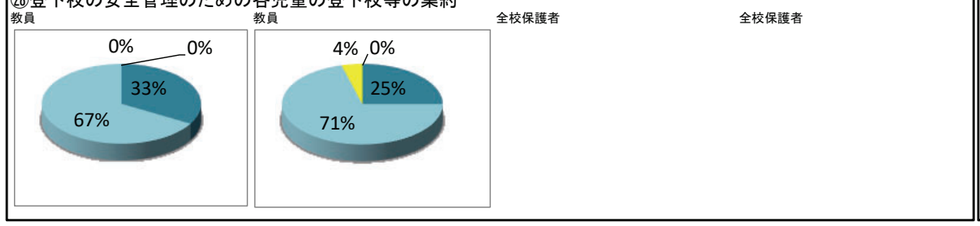
㉗健康や食に対する意欲・関心を高めるための取り組み



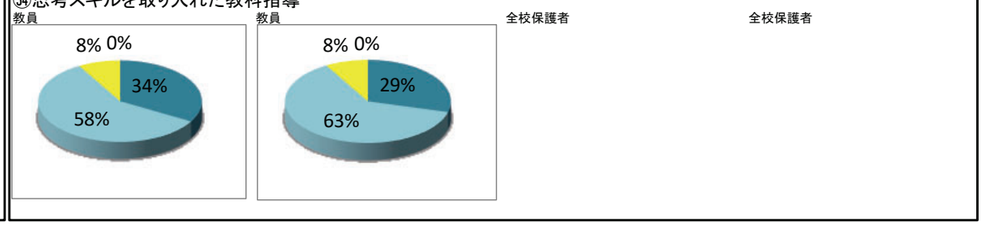
㉝思考力育成や授業全般の指導力向上の研修



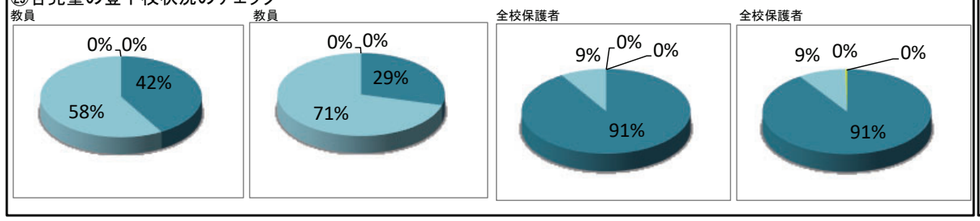
㉘登下校の安全管理のための各児童の登下校等の集約



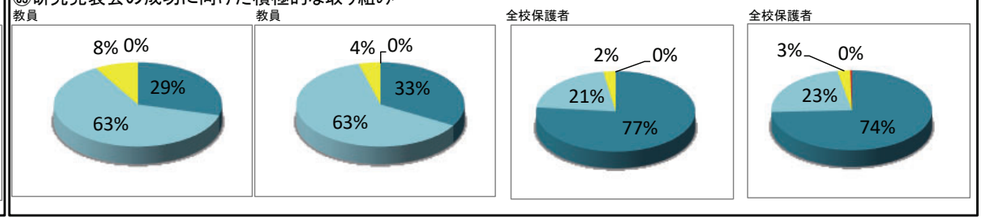
㉞思考スキルを取り入れた教科指導



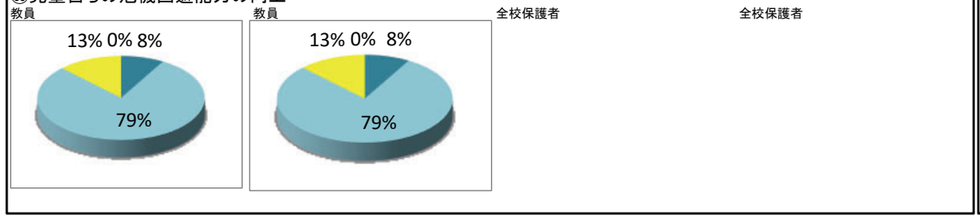
㉙各児童の登下校状況のチェック



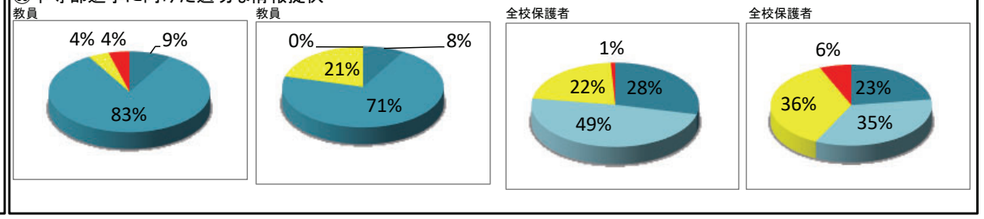
㉟研究発表会の成功に向けた積極的な取り組み



㉚児童自らの危機回避能力の向上

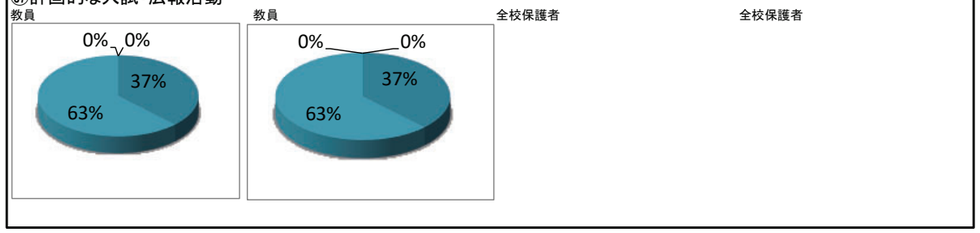


㊱中等部進学に向けた適切な情報提供

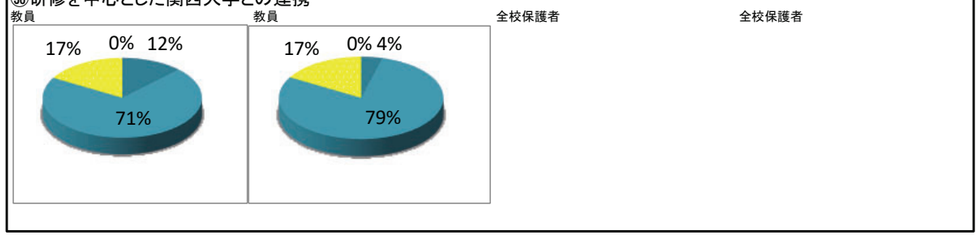


2024　2023　2024　2023

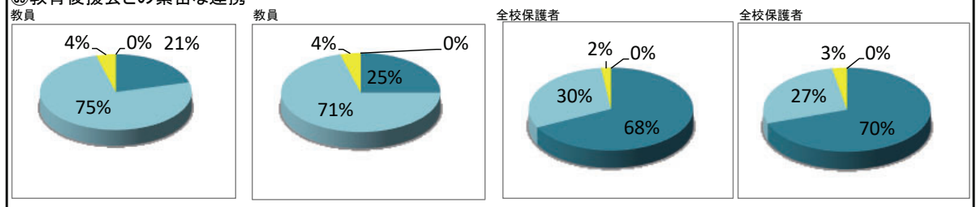
㊲計画的な入試・広報活動



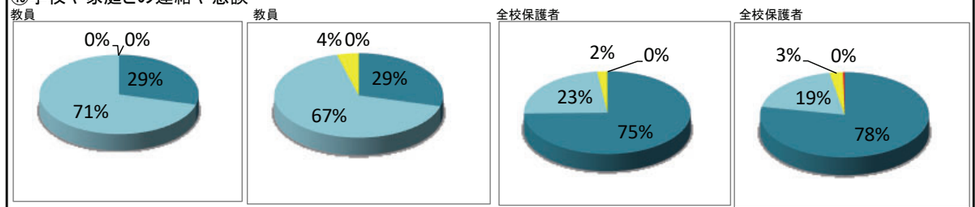
㊳研修を中心とした関西大学との連携



㊴教育後援会との緊密な連携



㊵学校や家庭との連絡や懇談



学校生活をふりかえって（4・5・6年生用）

学校生活をふりかえって、下の質問に答えてください。
※　1＝よくあてはまる　　2＝ややあてはまる　　3＝ややあてはまらない　　4＝まったくあたはまらない

①関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。

②学校は楽しいですか。

③勉強をがんばっていますか。

④思考力がついたと思いますか。

⑤先生方は工夫した授業をしていると思いますか。

⑥本や資料を、必要に応じて活用することができましたか。

⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。

⑧運動会や文化祭など、さまざまな行事に積極的に取り組みましたか。

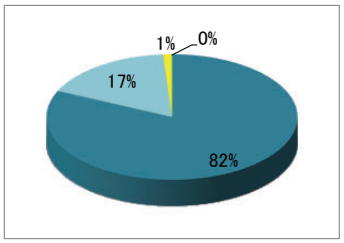
⑨ルールやマナーを守って学校生活をおくることができましたか。

⑩「いじめ」や「なかまはずれ」などをせず、仲よく生活できていますか。

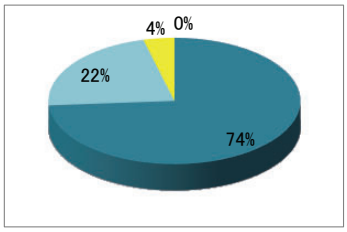
2024年度（児童アンケート）

よくあてはまる　ややあてはまる　あまりあてはまらない　まったくあてはまらない

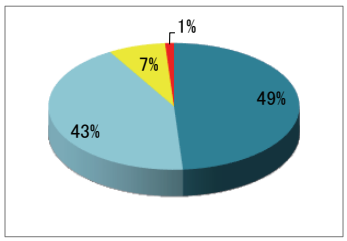
①関西大学初等部に入学してよかったと思いますか。



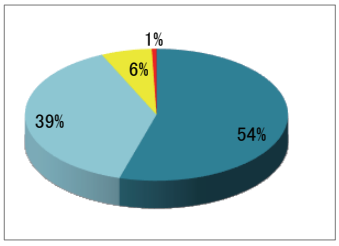
②学校は楽しいですか。



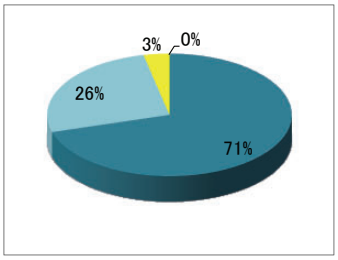
③勉強をがんばっていますか。



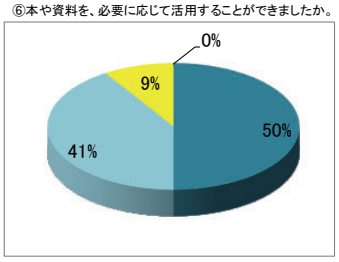
④思考力がついたと思いますか。



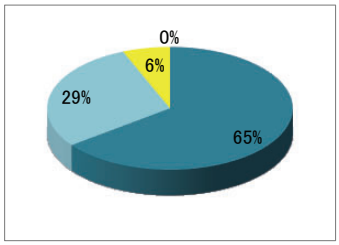
⑤先生方は工夫した授業をしていると思いますか。



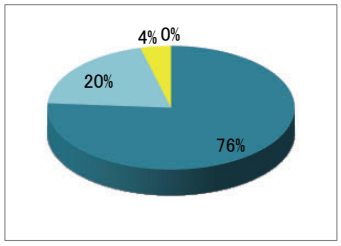
⑥本や資料を、必要に応じて活用することができましたか。



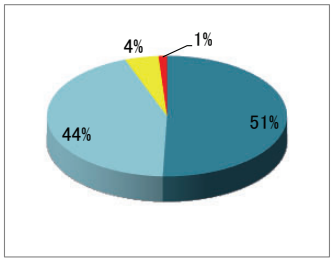
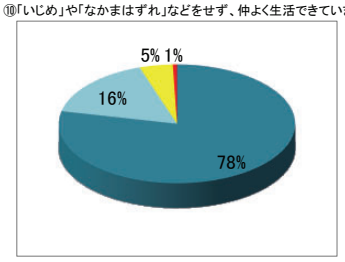
⑦iPadやパソコンなどを、必要に応じて活用することができましたか。



⑧運動会や文化祭などに積極的に取り組みましたか。



⑨ルールやマナーを守って学校生活を送ることができましたか。



⑩「いじめ」や「なかまはずれ」などをせず、仲よく生活できていますか。